

第46回日本小児皮膚科学会報告書

2022.7月 舞浜 (※は平井のコメントです)

学校生活管理指導表：

食物アレルギーの原因食物の記載は、除去か除去不要に統一され、＜保護者と相談し決定＞が無くなった。学校で相談されると決まらなく時間がかかるため、医師の判断に委ねられることになった。＜診断根拠＞は＜除去根拠＞に。診断がついていなくても除去する根拠があればOK。

牛肉アレルギーはA型とO型の人に発症し、B型とAB形にはない。(※本当かしら?)

コロナ禍の皮膚症状：

感染が原因：脱毛、AGA発症、アカツキ病(垢がこびりついている)

ワクチンが原因：接種部位の腫れ

感染対策が原因：マスクあれ(長時間つけるための刺激性皮膚炎)、口角炎、ざ瘡(ニキビ)の悪化、女子ではニキビを隠すため、メイクがどんどん増えている。耳切れ、毛包炎、膿疱

手荒れ：手袋によりむれて手湿疹。消毒により皮膚は乾燥し、刺激性皮膚炎。消毒剤の加硫促進剤が原因

対策：消毒より手洗い(石鹸の泡で優しく洗う)

JAK 阻害剤：トピックです。塗り薬のコレクチム

(苔癬化にとてもよく効きます。効く病変の選択は平井にお任せください)

飲み薬や注射薬もありますが、非常に高価で重症の方に限られます。



こども用ベッドにはダニが多いと思われませんが、実は卵抗原も多く存在しており、ダニが原因と思ったら、卵の事がある。(※両方の事が多いでしょう。)

Pork-Cat 症候群：猫と接触のある人が十分加熱されていない豚肉を食べることで発症することがある。

α -Gal 症候群：マダニに咬まれるとなる。(※咬まれたらすぐに来ていただければ、当院で除去できます。)

コロナと、川崎病に似た皮膚病変：

コロナ感染後に発症する全身性炎症性患者に Covid-19 関連小児多系統炎症性症候群がある。(MIS-C)。

当初は川崎病が併発したかと思われましたが、強い腹痛など消化器症状がよく見られ、年長児に多い、検査所見が異なる、などから別の病気という認識が主流です。

ざ瘡(ニキビ)の治療：基本は塗り薬で、BPO、アダパレン、(必要に応じて)抗菌薬。BPOと抗菌薬(クリンダマイシン)の合剤で、使いやすいデュアックが登場した。最初の3ヶ月が適応。刺激感を感じることもある。保存は冷蔵とされていますが、1ヶ月程度ならば室温でも材質に問題はない。(※当院でも処方できません)

塗り薬を忘れないコツ： 脱衣所に置いておく。

アトピー性皮膚炎のゴール：第1のゴール：薬を使ってでもかゆみ、湿疹がない状態にする。

最終ゴール：スキンケアのみ(もしくは週1回程度の塗り薬)でかゆみ・湿疹がない状態を維持する。